令和５年度　関係者評価書

令和6年2月16日
鈴鹿市立長太小学校

鈴鹿市立長太小学校

評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	**「基礎学力・活用力の定着と主体的・対話的な学びの実現」** ①「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディ・チェック」の結果の分析及びワークシート等の活用。 ⇒ 全体研修会（自校採点を含む）は年３回。過去問題を解いたりワークシート等を宿題にしたりする取組は年数回。 ②学力向上の土台となる学級づくり・仲間づくりの人権教育校内研修の推進。 ⇒全校で朝学の時間に綴り方に取り組み、それを交流したり、人権学習の授業を行ったりする。6月に全体授業研修、10月に公開授業。 ③家庭での学習習慣の定着・確立 ⇒「家庭学習の手引き」の作成・配付。 ④ICT機器の効果的な活用 ⇒校内研修に位置付けて行う。 ⇒授業において子どもたちにクロームを活用させる。 ⇒学年の実態に応じて、日常的にクロームを持ち帰り、家庭学習で活用。 ⑤学習支援ボランティアの活用 ⇒年度初めから実施。 （成果と課題） ○6年の「全国学力・学習状況調査」、5年生の「みえスタディ・チェック」は県平均を上回った教科が多かった。全職員で採点にあたり、分析から得られた強み・弱みを意識した授業改善につなげてきた。 ○年10回の全体研修会の開催、5学級の公開授業の実施（市教委の指導主事を招聘した研修会を含む）により、授業実践研修に取り組むことができた。特に10月の公開授業に向けて、学年部研修を繰り返し取り組み、綴り方や人権学習の教材研究等を深く行うことができた。 ○「家庭学習の手引き」の作成・配付等の取組により、家庭学習の定着を図ることができた。「家庭学習の手引き」を各教室に掲示し、子どもたちに家庭学習の大切さを常に意識させた。 ○家庭学習を毎日課し、学習に向かう習慣づけをおこなった。その成果として学力が向上した。 ○火曜日、金曜日の朝の学習（15分間）に綴りの時間を設定し、学校全体で取り組んだ。その成果として、「書く」力は向上した。また、綴り方の交流をすることで、伝え合う力も向上した。その結果、どの教科の授業も、考えことを積極的に発言しようとする姿が見られた。 ○研修にICTを位置づけたため、教師の意識も高まった。授業においても、子どもたちがクロームを使う機会を増やしたため、操作や学習に慣れてきた子どもが増えた。 ●教師の出す家庭学習はやってくるのだが、自主学習をやってくる児童は少ないのが現状である。 ●今後も学校全体で、児童の学力向上に向けた取組をより一層進めていく必要がある。特に、家庭学習については、「家庭学習の手引き」の作成・配付等の取組だけでなく、家庭でのゲーム・スマホの使用の仕方等について、他機関とも連携しながら啓発していく必要がある。	・「学習内容がわからない→やる気が出ない→あきらめる」悪循環にならないように子どもたちには目標をしっかり持って、楽しく学んでもらいたい。 ・自分の興味のあること、関心のあることをたくさんみつけてほしい。 ・基礎学力の向上は、昨年度に引き続き「全国学力・学習状況調査」「みえスタディ・チェック」を全職員で採点し、分析して授業改善につなげてきたことや、家庭学習の定着が進んだ成果であり、大変評価できる。 ・結果を見て、成績向上したように見られるが、子どもたちが学習する大切さを理解し、少しでも自信をもってテストに向かうようになるとよい。 ・「全国学力・学習状況調査」「みえスタディ・チェック」の結果分析し、ワークシート等の活用を行っていただき、くり返し学習できたことはよかったと思う。まちがった個所を見直しできない子もいるので、振り返りは継続的にやってほしい。 ・授業研究は、先生方の資質向上に欠かせない。長太小の取組は高く評価できる。 ・長太小の「書く」取組に声援を送りたい。 ・色々な角度から学力向上に取り組んでいるのが理解できる。 ・研修会等先生方の努力により学力の向上が見られたことは感謝し、評価する。 ・子どもたちががんばれるような環境を作ってくださっていると思う。 ・「つづり方」により得られる力は、コミュニケーションにおいても大切なものだと思うので、今後も継続していただきたい。 ・綴りを積極手的に行っているなといつも感心している。担任の先生が学級通信で綴りを取り上げてくれていて、子どもたちの考えに触れることができるし、保護者としても自分を見つめ直すよいきっかけになる。 ・子どもたちのスマートフォンによるゲームが学力低下につながる大きな原因あると思う。子どもたちへの意識改革を促すため、他機関との連携・協力体制をとり、ゲームによる弊害を伝えることが必要。 ・保育要領等の具体的な活用についてどのような取組をしているのか教えてほしい。また、保育要領の必要性についても相談したい。 ・子どもの学力向上は家庭教育が非常に重要。保護者の取組方によって大きく左右される。 ・家庭学習の定着については、多くの家庭は共働きで、一部の子どもたちは学童等へ行くが、多くの子どもが気軽に行ける場所づくりが今後検討課題である。 ・家庭学習の手引きを毎年作成していただきありがたいが、結局利用せずに終わってしまっている。 ・クロムの１年生の持ち帰り頻度を抑えてくれているのはありがたい。（重たいので登下校時大変）使用ルールを指導していただいていると思うが、使用しすぎてしまうこともあるので、今後も徹底して指導していただきたい。 ・毎日の宿題は大変だが、継続して行うことで力がつくので、大変良いと思う。宿題を見る先生方も大変だと思うので、感謝している。 ・自主学習は家庭で促しても行うのが難しい。興味を持つことはあっても、それを書き留める習慣がないので、まずは自主学習とまではいかなくても、興味のある内容などを書いておく習慣がつくとよいのかなと思う。 ・今年、「教育を語る会」でオンライン講座をしていただいたが、ためにはなったが、内容が１度きいただけでは理解できなかった。もっとゆっくり回を重ねなければ理解できないので、またやってほしい。	・学調やみえスタディ・チェックで子どもたちの弱みを分析し、授業改善に取り組んでできた。その成果が徐々にではるが学力向上につながっている。今後も続けていく。 ・過去に出された問題の中から、長太小の子どもたちが苦手とする問題に取り組ませる。 ・子どもたち一人ひとりに寄り添い、フォローし丁寧に指導し続けることを大切にしていく。 ・今年度は、人権教育を校内研修とし、綴り方を全校挙げて取り組んだ。授業の土台となる学級・仲間づくりはもちろん、「みんなで授業をつくる」という研究主題に迫ることができた。また、金曜日の朝の学習で、綴り方を交流する取組を続けてきたことで、「伝え合う」「聴き合う」力をつけることができてきた。今後も、この取り組みを続けていく。 ・今後も、子どもたちにしっかりと寄り添う教師集団を目指す。 ・「学習の手引き」をクラスにも掲示し子どもたちの意識を持続させる。クラス掲示した「学習の手引き」を確認して、意識づけていく。 ・子どもたちのゲームや動画視聴時間は、年々増えている。学校だよりや学年通信、保健だより、授業等で保護者に啓発していく。 ・事前に保育要録も読み込んで参考にしているが、集団生活が始まると想定外のことが起こることが多いのできめ細やかな指導まですることが難しい。保育要録と事前に行われる支援に対する引継ぎをしっかりするとともに、目の前にいる子どもたちをじっくりみて指導に当たるようにしていく。
ICTの推進	○端末持ち帰りについて １年生：2学期から、月に数回、2～3年生：4月から週１回、4月から4～6年生：毎日 ○ICT支援員の活用について ICT支援員と連携して、情報モラルの授業を行ったり、児童の端末操作による授業補助に入ってもらう。また、今年度から放課後に職員を対象にしたミニ研修を行った。 ○日常的な端末活用について 課外活動の新聞づくりや単元の予習・復習を端末を利用して行う。さらに、高学年を中心に授業中の積極的な端末を活用した授業を取り入れた。	・ICT端末の持ち帰りによって、予習、復習がしっかりでき、何度も繰り返しやることで自分の理解がってきていないところをわかるようにする・・・効果的な家庭学習につなげてほしい。 ・ICTを活用した新しい授業の様子は、保護者は想像しにくいかと思うので、地域に積極的に公開してほしい。 ・パソコンを自在につかいこなす子どもの姿には驚かされる。コロナ禍で唯一よかったと思えるのは、子ども一人ひとりにパソコンが支給されたこと。先生方の負担を減らせたらもっとよいのだが・・・ ・ICT機器の継続的な使用がうかがえる活動である。機器のメンテナンスや交換はどうなっているのか気になる。 ・端末の活用については、職員を対象にしたミニ研修の実施や新聞づくりなどの課外活動でも活用するなど、職員のスキルアップによって児童の学びをサポートし、端末の活用の機会を広げようとする取組が評価できる。 ・高学年は毎日使うことでかなり端末を使うことに慣れた様子。	・今年度も計画的にICT機器を使い、目で見てわかりやすいような視覚支援を行ってきた。今後もこのような活用をしていく。 ・ICT機器を使って家庭学習にも取り組んでいる。各学年でどのように活用したかを校内で情報共有し、来年度からの参考にしていく。 ・ICT機器は、まず慣れさせることから始める。ローマ字で入力させるため、タイピング練習にも取り組ませる。4～6年生においては、パワーポイント、オクリンク、canva等でまとめたり発表したりする活動に取り組んだ。今後も、ICT機器を使って分かりやすいプレゼンの方法を探っていく。 ・3～6年生はクロムを毎日持ち帰り、長期休みもクロムを持ち帰り、学習の向上につなげている。クロムを持ち帰ることで、自主学などで、調べ学習につながっている。
不登校対策	**「不登校児童の減少及び不登校状態の質の改善」** ○自己肯定感や共に生きる心の育成。 ⇒仲間づくりを意識した学級経営や教職員の情報共有、組織的な対応により、児童の自己肯定感の向上を図った。 ○仲間づくりの授業を進めるための研修会，実践交流会の開催。 ⇒年間を通じて定期的な研修を行い、教職員の指導力向上を図った。 ○鈴鹿市の子ども家庭支援課やスクールソーシャルワーカー，関係諸機関と連携し，長欠児童昨年度比10%減を目指す取組。 ⇒関係機関と連携し、必要に応じて支援会議を行った。 ○SCによるやSSW及び関係機関との連携。 ⇒スクールカウンセラーによる保護者（児童）の相談会を定期的に実施した。（年間１１回実施：１回あたりの相談者平均5名） （成果と課題） ○不登校、登校渋りの児童は全体的に増えている。登校が難しい児童もいるが、短時間でも学校に来ることができたり保健室登校ができたりしている。また、登校渋りの児童も、保護者との連携で登校につなげることができている。運動会、音楽会、修学旅行、宿泊学習等の行事で、登校しにくい子どもを意識した取組や、登校につながる働きかけをすることができた。 ○日々、仲間づくりを意識した学級経営を行えた。研修部主催でレポート研修会や事例検討会を行い、教師の意識や技量の向上を図れた。 ○毎週火曜日、朝の学習で綴り方を書く取組で、子どもをつかみ、子ども同士をつなげることができた。 ○児童の様子をニ部会や職員会議で交流し、全職員で子どもの実態把握ができた。 ○子ども家庭支援課やSC等、関係機関と連携しながら，児童の支援や家庭の支援を進めることができた。 ●諸機関と連携することは有効であるが、子ども自身の課題や保護者や家庭の問題を改善していくには時間がかかる。	・毎日少しずつの積み重ねだが、次のステップに進めるよう、保護者、子ども家庭支援課、スクールカウンセラーなどの関係機関と連携しながら先生方にお願いしたい。 ・地区では不登校について把握しにくい。日常的に交流がなく、面識不足も大きな要因となっている。 ・家庭での会話が大切。保護者から、子どもに対し、今日の出来事などを聞くことが大切。 ・集団登校に参加させ、会話の仲間に入る。いじめ防止策にもなるのではないか。 ・不登校や登校渋りの原因を的確に把握することは難しい。関係機関との連携、情報共有は不可欠であるが、早期対応を心がけていただきたい。 ・他の関係機関と連携を取りながら、情報収集していただき、跡切れのない支援につなげていただきたい。小学生でもヤングケアラー的な役割を担っているケースもある。 ・不登校や登校渋りの実際の人数はどのくらいか。 ・自然災害が発生した場合、つながりや協力が大切なので、仲間づくりの大切さを教えることが大切。 ・学校には友だち同士の居場所がある。喜び、楽しみを共有する。 ・不登校児童への対応は、様々な要因があり、先生方のご負担も大きいと思われますが、親も子も一番頼りとする方々ですので、今後とも寄り添っていただきたい。 ・スクールカウンセラーに毎月来てもらえることは、学校側にとっても大変ありがたいこと。不登校に限らずトラブル発生直後の第三者の視点は重要である。 ・自己肯定感を向上させる取り組みはどんどんやってほしい。 ・スクールカウンセラーが定期的にきてくれるのはうれしい。 ・全職員で子どもを見守ってくれるのはありがたい。	・今年度の取組を、今後も長期的なスパンで、粘り強く進めていく。 ・全学年で取り組んでいる綴り方で、子どもたち生活の様子や思いをつかんでいきたい。 ・学校関係者評価でいただいた声を、地域に届け、地域全体の理解を求める。 ・学校関係者評価でいただいた「教室以外の場所が必要」「学習支援をしてくれる公的施設ができるとよい」「不登校児童を支援する機関に委託する」等の意見を、市や県にも届けていく。 ・スマートフォンやPCでのネット利用は、生活のリズムを崩す大きな原因となり、不登校とも深いかかわりがあると学校でもとらえている。このことについて今年度はPTAと連携し、「教育を語る会」でネット利用する子どもたちの危機的な実態とその対応について専門家から講和を聞いた。今後も学校と関係機関とで連携し、子どもたちを見守っていきたい。確実に多くの保護者に啓発する機会をもつために、授業参観のときに保護者と一緒に参加する学習会をもつなど考えていく必要があると考えている。
いじめ防止	**「自己肯定感や共に生きる心の育成」** ①「長太小学校いじめ防止基本方針」の策定 ⇒4月～5月の間に作成、周知し、共通理解のもと指導にあたる。 ②いじめや差別をなくす取組。 ⇒4月、11月の年2回「いじめ防止月間」の取り組み。 教員によるピンクシャツ運動の実施。 また、学校独自に12月を「人権月間」に設定。 ③「いじめアンケート」の実施と活用 ⇒各学期に１回、アンケートを実施。 ⇒アンケート後、「はい」と答えた全児童と面談する時間をとる。 ④日常的な情報共有と組織での対応。 ⇒週2回の打ち合わせを利用して速やかな情報共有を行う。 ⇒毎月の職員会議で各クラスの児童の様子について情報共有を行う。 <成果と課題> ○いじめ防止基本方針の作成において、教職員の共通理解を図り、何があっても「いじめを許さない」という強い思いのもと、各学級での指導にあたることができた。 ○●人権月間の取組では、各クラスの課題を見つめなおすだけでなく、「長太小宣言」を作成することで、学校全体で共通の目標に向かって取り組むことができた。ただ、言葉にするだけでなく、継続的に具体的な姿で振り返りの時間を取っていく必要がある。 ○教職員全体でピンクシャツ運動を実施することで児童に絶対にいじめを許さない姿勢を示すとともに、学校通信や学校ホームページ等で保護者にも啓発ができた。そして、いじめ防止川柳など児童会の取組にもつなげることができた。 ○アンケートの結果、１学期は15件、2学期は19件のいじめにつながる事案を把握することができ、早期に対応することができた。 ○2学期には、１学期に「はい」と回答した児童に改めて現在の様子を確認することで継続的な見守りができた。 ●いじめアンケートを待たずとも教職員の目で発見したり、ささいなことでも相談したりできるような関係づくりが求められる。 ●SNS等の普及により今まで以上に保護者への啓発や各家庭との連携が求められる。 ○打ち合わせや職員会議を待たずに、クラスや学年の問題を共有できる雰囲気が職員室にあり、１つの問題に対して学校全体で取り組むことができるのが長太小学校の強みである。 ○学校全体として「綴り方」に取り組み、児童の課題や直面している問題の早期発見、仲間とのかかわりを捉える一つの手立てとすることができた。	・先生方の取組は評価できる。 ・全ての子どもたちが安心して登校できるよう、意識付けやご指導いただき、ありがとうございます。来年度もお願いします。 ・いじめの根絶には、「いじめは許さない」という先生の姿勢をことあるごとに示していくことしかない。長太小の取組は評価できる。また、低学年では「自分が相手からされたくないことは、自分も相手にしない」という意識を持たせることが重要。 ・スマホ等の普及により学校生活だけでなく家庭での生活状況の把握に始まり、休日や長期休み期間の対応等いじめに関わる対応は大変かと思う。YouTubeなどのSNSの影響による言葉違いや問題行動がいじめの問題にも密接に関わってくるのかなと感じている。 ・常に情報共有を心がけ、学校全体で取り組んでいく姿勢は大変評価できる。 ・不登校対策と重なる部分もあると思うが、児童の自己肯定感や安心感、自己効力感を育む関わり方について、家庭においても実践できるよう保護者への資料配付や研修会等の開催を検討されたい。 ・多様性が求められる時代であるにも関わらず、日常生活の中では同調圧力を感じている。人との関係性の中で生きづらさを感じている児童に対して、どのような関わりが大切なのか、考えていきたい。 ・いじめ防止は、先生と子どもの信頼関係が大変重要と考る。 ・現状の取組は良い。どんな小さなことでも取り上げて、学級等で子どもと意見交換することも大事。 ・色々といじめ防止に向けて御苦労されている先生方に感謝する。 ・いじめの芽は、先生方の目の届かない所（廊下、階段、トイレ等）で出てくる可能性が大きい。 ・先生の子どもに対する声のかけ方にも注意が必要。 ・今の取組を継続してほしい。 ・互いを生かす教育であると感じる。 ・感謝する意識を育てる ・現在地球上で起こっている戦争といじめは通ずるものがあることを子どもたちに伝える必要がある。 ・日頃からの友だちへの言葉の使い方に気をつける。 ・いじめや人権についての川柳を書く取り組みはすばらしい。ぜひ続けてほしい。	・①～④の取り組みは継続して行っていく。 ・研修・人権部との連携を深め、学校全体で１つ１つの問題に取り組めるような体制づくりを進める。 ・いじめや差別を絶対に許さない姿勢をこれからも担任、教職員全員で示していく。 ・いじめ件数の多さは、正しい認知、早期発見ができている証であるととらえたい。 ・共通理解を深め、正しい認知や対応がとれるように、校内研修を実施する。 ・いじめアンケートの実施後、事案の報告のみに留まらず、企画委員会や生活指導部会で事例検討を行っていきたい。 また、今年度同様、前回のアンケートでの該当児童への声掛けを徹底し、長期的な目で見守っていくことを大切にしていきたい。 ・全校で取り組んでいる「綴り方」を継続し、日頃から児童の内面の把握に努める。綴り方に取り組むことでいじめや問題行動の早期発見につなげたり、児童の背景を理解した上で指導に当たったりできる。 ・「長太小宣言」を年度が変わっても途切れさせずに、意識させていく。そして定期的に振り返りの場を持っていく。 ・児童会が自発的にいじめ0に向けた取り組みを実施できるように、見守るだけでなく、時には方向性を導く提案をし、教職員と全校児童が一丸となっていじめ根絶に取り組んでいく。 ・携帯・スマホの所有の低年齢化やクロムブックの日常的な使用などにより、今まで以上にネット上のトラブルに注視する必要がある。アンテナを高くし、未然防止指導に力を入れるとともに、各家庭との連携を強めていきたい。今年度のように家庭教育学級でテーマにするなど、PTA行事に取り入れて啓発していく。また、授業参観でSNSにかかわる教材を取り扱い、保護者とともに考えられるような機会にしていく。 ・物の管理や人間関係、出欠や遅刻、保健室の利用頻度、表情など児童の「変化」に敏感になれるように日々児童とのかかわりを大切にしていきたい。そのためにも児童と向き合える時間を増やせるように働き方改革を進めていくことが急務である。
地域連携	**「開かれた学校づくり　～地域と連携した教育活動の充実～」** ○3年生鯨船行事，4年生なごの大楠写生など，地域に伝わる伝統文化を題材にした教育活動を教育課程に位置付けている。毎年確実に引き継がれている。 ○地域の行事や祭に積極的に参加している児童が70%（R5調査）。○PTAとまちづくり協議会との連携協力がされている。 ○「みまもりたい」や学習ボランティアなど，学校の教育活動への理解と協力が得られている。 ●地域に外国人が増えているが，外国人が地域に参画できるような工夫が必要。学校と地域が連携し，外国人児童とその家庭を見守り，働きかけていくことが必要である。	・長太小学校区は、学校・PTA・地域がタッグを組んでまちづくり協議会として連携協力されていると思う。学校運営協議会では楽しく、活発な意見もたくさん出て、先生方の大変さもよくわかり、PTAのお母さん方の子どもたちへの思い、地域からの子どもたちへの思い、これからもみんなで連携しながら充実した地域づくりをしていきたい。 ・みまもりも含め、地域と学校が連携することが大事。 ・公民館で開催する小学生講座に参加する児童数は年々増えている。これからもいろいろな経験ができるような事業を企画していきたい。 ・外国人児童とその家庭についても、地域住民と交流ができるような事業を検討していきたい。 ・いろいろな活動が再開され、地域住民とも交流を図れる機会が以前のように戻りつつあり、良いことであると感じている。大谷翔平グローブの見学会のような、地域住民が興味を示しそうなイベントをされるのも良いかと思う。 ・外国籍の子ども一人ひとりの気持ちに寄り添うことが必要。また、学級担任だけでなく、専任の教師が配置されるとよい。 ・まちづくりの各部行事で、親子が参加できる行事を考えてもらっている。 ・地区の諸活動に子どもたちの参加が多いのは、地域の宝として、さらに輪を拡大していけるように、まちづくり協議会や自治会、民生児童委員会との協働活動を進めていけるとよい。 ・「みまもりたい」の活用、活動をさらに深めてほしい。 ・鯨船、なごの大楠写生、とうろう作りと、地域の方の協力をいただいていろいろなことを体験できて大変ありがたい。 ・外国人児童やその保護者と交流する機会がほとんどないのが少し残念。	・学習ボランティアについては、来年度もぜひ実施していただきたい。ミシンを使用する授業に関しては、3学期も引き続き来ていただいている。今後も助けていただきたい。 ・授業参観時など、運営委員の方も保護者といっしょに授業参観をしていただく。 ・生活指導部と連携を密にして、学校運営に取り組む。 ・授業参観時など、運営委員の方も保護者といっしょに授業参観をしていただく。